

- 問1 上皇が権力を強めるため、自らの警護や武力行使のために雇った地方の武士団を何という？
- 問2 平等院鳳凰堂などの建築に影響を与えた、阿弥陀仏にすぎる信仰を何という？
- 問3 平安時代に唐から帰国し、比叡山に延暦寺を建てて天台宗を開いた僧は誰？
- 問4 平安時代、父・道長の別荘を寺院に改め、宇治に平等院鳳凰堂を建立した人物は誰？
- 問5 平清盛が日宋貿易を推進するために修築した、兵庫県の港を何という？
- 問6 平安時代中期、天皇の後を出すことで政治の実権を握った代表的な一族は誰？
- 問7 平安時代中期に、地方の統治や徴税などの実務を一任された地方官を何という？
- 問8 794年に山背国へ平安京を遷都し、奈良時代の政治を立て直そうとした天皇は誰？
- 問9 摂関政治を抑制し、独自の権力を取り戻そうとした天皇は誰？
- 問10 平治の乱で勝利し、武士として初めて太政大臣に任命された人物は誰？
- 問11 平安時代、地方の政治が乱れる大きな原因の一つとなった制度の廃止を何という？
- 問12 平安時代中期に『枕草子』を著し、宮廷生活の機微を描いた人物は誰？
- 問13 摂関政治の全盛期に「望月の歌」を詠み、栄華を極めた人物は誰？
- 問14 天皇が幼少の時に代わって政治を行い、天皇を補佐する役割を持つ官職を何という？
- 問15 平安時代初期まで、日本が中国（唐）へ文化や制度を学ぶために派遣した使節を何という？
- 問16 源氏物語が生まれた当時の、貴族の感性を反映した日本独自の華やかな文化を何という？
- 問17 平安時代末期、朝廷による平定が進んだ東北地方で、独自の勢力を築き上げた一族を何という？
- 問18 平安時代末期、東北地方を拠点として独自の勢力を築いた一族を何という？
- 問19 娘を天皇の後にして天皇の親戚となり、藤原氏の全盛期を築いた人物は誰？
- 問20 平安時代初期に空海らが唐から伝え、当時の貴族や僧侶の間で信仰された、高度な儀式や修行を重んじる新しい仏教の教えを何という？
- 問21 天台宗において、あらゆる人が救われるという教えの中心となっている経典を何という？
- 問22 平安時代初期に唐から天台宗を伝え、比叡山に延暦寺を開いた人物は誰？
- 問23 平安時代末期に厳島神社の社殿を整備した武士は誰？
- 問24 平安時代中期、天皇が幼いときに補佐する役職を何という？

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え</b> 北面の武士	白河上皇が御所の北側に部屋を設けて警護させたことから「北面の武士」と呼ばれます。彼らは単なる警備員ではなく、実力行使の手段として上皇の信頼を受け、次第に政治的な発言力を持つようになりました。
問2	<b>答え</b> 浄土信仰	浄土信仰は、「南無阿弥陀仏」と唱えることで、死後に阿弥陀如来のいる極楽浄土へ生まれ変わることができるとする教えです。貴族たちの間で広まり、平等院鳳凰堂のような豪華な阿弥陀堂が建立されるきっかけとなりました。
問3	<b>答え</b> 最澄	最澄は、唐に渡って天台の教えを学び、日本に帰国して比叡山に延暦寺を建立しました。彼は「すべての人が救われる」という平等を説き、厳しい修行を重視する天台宗を開きました。また、比叡山には多くの優れた僧が集まり、後の日本仏教界に多大な影響を与えました。
問4	<b>答え</b> 藤原頼通	藤原頼通は、権力の絶頂期にあった藤原道長の息子です。1052年、彼は父から譲り受けた京都・宇治の別荘を寺院へ改め、平等院を建立しました。これは、当時の貴族たちが願った極楽浄土の姿を現世に再現しようとする試みでした。
問5	<b>答え</b> 大輪田泊	平清盛は、瀬戸内海の海上交通を支配し、安全な航行を確保しました。その要衝として、現在の兵庫県神戸市にある大輪田泊を修築しました。これにより、宋からの商船がより安全に寄港できるようになり、日宋貿易は大きく発展しました。
問6	<b>答え</b> 藤原氏	藤原氏は、自分の娘を天皇に嫁がせて生まれた子を次代の天皇にすることで、天皇の親戚（外戚）として権力を振るいました。藤原道長の時代に全盛期を迎え、朝廷の主要な官職を独占しました。
問7	<b>答え</b> 国司	国司は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。この職に就くことは、地方の富を吸収できるため、貴族たちにとって大変うまみのあるポストとされていました。
問8	<b>答え</b> 桓武天皇	桓武天皇はまず長岡京への遷都を試みますが失敗し、その後794年に山背国（現在の京都）へ平安京を遷都しました。これにより、旧来の仏教勢力との結びつきを断ち切り、新たな環境で朝廷の威信を取り戻そうとしました。
問9	<b>答え</b> 後三条天皇	後三条天皇は、母が藤原氏の出身ではなかったため、藤原氏の影響をあまり受けずに即位しました。彼は藤原氏の干渉を排除して政治を行うため、記録荘園整理令などの政策を打ち出し、天皇中心の政治を復活させようとした。この動きが、のちの院政へとつながる重要な転換点となりました。
問10	<b>答え</b> 平清盛	平清盛は、平治の乱で源義朝を破って政権を握りました。武士として初めて太政大臣に任命され、一族の繁栄を築き上げました。また、日宋貿易を積極的に進め、経済的基盤も強化しました。
問11	<b>答え</b> 遣唐使廃止	894年の遣唐使廃止によって日本は中国との公的な外交関係を絶ちました。これにより、中央政府の関心は外交から国内統治へと向かいましたが、地方へ派遣された国司たちが現地へ赴かず、京に留まって私腹を肥やすといった政治の腐敗が目立つようになりしました。
問12	<b>答え</b> 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕えた女房です。彼女の代表作『枕草子』は、「春はあけぼの」という有名な書き出しで始まる随筆です。宮廷生活の中での出来事や、自然の美しさに対する鋭い観察眼と、彼女自身の機知に富んだ考え方がユーモアを交えてつづられています。当時の貴族社会の価値観や美的センスを知るための極めて重要な資料です。
問13	<b>答え</b> 藤原道長	藤原道長はその摂関政治の頂点に立った人物です。娘の彰子を一条天皇の中宮にするなど、一族の女性を権力の中枢に送り込みました。「この世をば…」で始まる望月の歌は、彼が自身の権力の絶頂期を月になぞらえて詠んだものとして非常に有名です。
問14	<b>答え</b> 摂政	摂政は天皇が幼い間に代わって政務を行い、天皇が成人した後も補佐する役割として「関白」が置かれました。これら一連の政治形態を摂関政治と呼びます。藤原氏は代々この地位を独占し、天皇をしのぐ権力を握りました。
問15	<b>答え</b> 遣唐使	遣唐使は、天皇の命を受けて唐へ派遣された公式の外交使節団です。留学生や僧侶も同行し、帰国して新しい仏教（密教）や学問、技術を日本に持ち帰りました。しかし、894年に菅原道真の建議により停止されるまで、多くの人が命をかけて海を渡りました。これにより、日本は当時の東アジアの先端文化を吸収し、発展の礎を築くことができました。
問16	<b>答え</b> 国風文化	かな文字の発達により、『源氏物語』や『枕草子』などのすぐれた文学作品が生まれました。また、貴族の住宅様式である寝殿造や、大和絵などの芸術も発展し、平安貴族の生活に深く根付いた文化が形成されました。
問17	<b>答え</b> 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、藤原清衡から始まる4代にわたる一族で、平泉を中心に強大な経済力と軍事力を持ちました。金などの産出や対外貿易によって莫大な富を蓄え、中尊寺金色堂に代表される華やかな文化を築きました。
問18	<b>答え</b> 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、豊かな金の産出や馬の取引、大陸との貿易などを通じて莫大な富を築きました。この富を背景に、平泉の地に壮大な寺院群を建立し、仏教文化を花開かせました。
問19	<b>答え</b> 藤原道長	藤原道長は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。この強力な血縁関係を武器に、政治の決定権を独占し、藤原氏による統治の最盛期を現出させました。
問20	<b>答え</b> 密教	密教とは、仏の教えを秘密の教えとして、師から弟子へと直接受け継ぐ仏教の一派です。空海は真言宗として、最澄は天台宗の中に密教を取り入れました。この教えは、曼荼羅（仏の世界を絵にしたもの）や、手で印を結び、真言（呪文）を唱えるといった修行を重視します。
問21	<b>答え</b> 法華経	法華経は、天台宗が最も重視する経典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの経典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。
問22	<b>答え</b> 最澄	最澄は唐へ渡り、天台宗を学んで帰国しました。比叡山に延暦寺を建立し、厳しい修行を通じて多くの高僧を育てました。また、大乘仏教の戒律を授けるための「大乘戒壇」の建立を目指しました。
問23	<b>答え</b> 平清盛	清盛は日宋貿易を積極的に進め、経済的な力を高めました。航海の安全を祈願して、瀬戸内海の厳島神社を厚く信仰し、豪華な社殿を整備しました。平氏の権力は全盛を迎え、一族で朝廷の高位を独占するまでになりました。
問24	<b>答え</b> 摂政	摂政は天皇が幼少の際に代理として政治を行う役職であり、成人後は関白として補佐しました。藤原氏は一族から天皇の后を出すことでこの地位を世襲し、朝廷の政治を思いのままに動かしました。